

第59回

インハウスロイヤーに聞く

vol.3 日本ビジネスシステムズ株式会社

聞き手：新進会員活動委員会委員 白井 太郎 (63期)

新進会員活動委員会では、各分野で活躍している若手弁護士へのインタビューを行っています。今回は、インハウスロイヤーへのインタビュー企画の第3回として、日本ビジネスシステムズ株式会社にてご活躍されている貝原怜太会員(67期)にお話を伺いました。※本記事は2015年6月29日現在の情報をもとにしています。

—— 御社の概要や業務内容はどのようなものですか。

弊社は企業向けのITの企画、コンサルタント、システム開発から保守、運用までを行っている会社です。グループ全体では従業員約1600名、本体で約800名の従業員がいます。

—— 御社の法務部門の構成はどのようなものですか。

私が所属する法務部は私を含めて計4名のスタッフが所属しており、その中でインハウスロイヤーは私1名です。全員本社に勤務しています。

—— 貝原さんはどのような業務をなさっていますか。

私は兼務で経営計画、コーポレートガバナンス、社内規定の整備などの組織管理を行う経営企画部にも所属しています。経営企画部兼法務部、監査役スタッフという立場でして、業務としては新規ビジネスのリーガルチェックや契約書のレビュー、各部門からの相談への回答、株主総会や取締役会運営の補助、社内規定の整備等です。その他、監査役からの求めに応じて監査業務の補助を行うこともあります。

よくインハウスロイヤーの業務としてイメージされる契約書のレビューは今までのところ、月に日本語の契約書で数通程度ですが、英語の契約書レビューも期待されていますので、今後はもう少し増えると思います。

—— 貝原さんと他の法務部スタッフの業務内容に違いはありますか。

他の方に比べて社内規定の整備に関わるものが多くあります。また、新規ビジネス等の重要案件には基本的に携わることになっていますので、関与案件の面でも違いがあります。

—— 業務上、社外の弁護士とは関わりがありますか。

弊社の顧問弁護士に会社内での重要案件等での相談や、契約書のダブルチェック等をお願いしています。また、弊社を顧問弁護士の先生に紹介していただいたため、わからないことを相談しやすい面もあります。顧問弁護士の先生との会議が行われる際は、基本的に同席し、問題点について一緒に検討します。弁護士の視点、会社員の視点の双方を踏まえて、仲介役として関与できるよう心がけています。

—— どのような経緯で法律事務所への就職ではなくインハウスロイヤーになられたのですか。就職活動の状況は？

東京での就職を希望し、修習開始前に東京で多少の就職活動を行いました。実務修習地が釧路ということもあって、本格的に就職活動を始めたのは昨年(2014年)の8月頃でした。その後、9月から10月にかけていくつかの内定をいただきました。

弊社につきましては、法科大学院でお世話になった弁護士の先生の後輩弁護士が弊社の顧問弁護士であるとの縁で、インハウスロイヤーを募集しているというお話をいただきました。非公開の募集であったようで、最初の面接が役員面接であり、緊張しました。



貝原怜太会員（左）と白井太郎委員

弊社の内定を得た段階で、他に日弁連のひまわり求人求職ナビにおいて公募していた2つの東京都内の法律事務所からも内定をいただいていたが、IT業界に興味があったことと、裁判所や検察庁での修習中に組織内で働きたいと考えたこと、弊社が成長中の企業であり様々な経験を積んでいけると考えたことがインハウスロイヤーになった決め手でした。

—— 下世話な話ですが、待遇面での法律事務所との違いは？

まず労働条件が明確です。定時は午前9時から午後5時30分までで、給与額などの労働条件も明示されました。給与は法律事務所に就職した同期から聞いた平均的な数字と同等ですし、残業代も支払われます。

—— インハウスロイヤーのやりがいとは何ですか。

弊社は成長中のため、成長とともに様々な重要案件に当事者として携わることができ、やりがいがあります。また、新規ビジネスの立ち上げ段階初期から携わることができる面などはインハウスロイヤーの良いところだと思います。将来的にも、重要案件に携わる機会を活かして社内で活躍す

れば、上層部に認められるチャンスが十分にあると感じています。

—— 会務活動や弁護士会の利用等はどのようになっていますか。

定時は午前9時から午後5時30分ですが、上司の理解があり、許可を取って、勤務時間中でも弁護士会の図書館に出向いたり、委員会活動に参加することは可能ですし、委員会活動や弁護士会の研修に興味はあります。ただ、私自身まだ仕事に慣れていないため業務量の都合上、あまり研修などに参加できてはいません。

今後、仕事に慣れ、大型案件が終結して余裕ができ次第、弁護士会や日本組織内弁護士協会の研修にも積極的に参加していきたいと考えています。

—— 最後に、インハウスロイヤーに興味のある方へメッセージをお願いします。

インハウスには事務所弁護士では絶対にできない仕事がたくさんあります。代理人という立場ではなく、当事者として案件に近づきたい方、ワーク・ライフ・バランスを重視される方、組織で活躍したい方はインハウスロイヤーという働き方を考えてみてはいかがでしょうか。

聞き手雑感

金額を聞いた聞き手の雑感としては、現在の就職事情では魅力的な給与額であり、魅力的な人材の確保のために法律事務所も新人弁護士の給与水準を下げる一方ではなく、インハウスの雇用条件を把握しておくことが必要かと感じました。また、社内における福利厚生も充実しており、素晴らしい会社であることを実感しました。